

平成23年3月25日

アルプスだより

同窓会アルプス会会報

信州大学医学部保健学科看護学専攻
信州大学医療技術短期大学部看護学科

第26号



会長挨拶	2
震災義援金の寄付について	3
第16回総会報告（会計報告）	3
講演会の報告	6
退職教員のご挨拶	7
世界で活躍する同窓生	8
同窓会会則	12
思い出の写真★ユニフォーム編	16
編集後記	16



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

アルプス会の会報が、オールカラーになりました!!

アルプス会の活動も16年目になりました。今年度の特筆すべき出来事は、会報がオールカラーになったことです。アルプス会の設立時は予算も少なく、学校の印刷機を借り、事務局の先生方と会報委員が白黒の印刷をしていました。これは、まったくの家内工業でした。当初は、発送作業も理事会の後に数時間をかけて行っていました。その後、会員が増え予算にも余裕が出て、発送作業を学生アルバイトにお願いできるようになりました。それでも、ずっと学内での事務局の先生方による白黒印刷の時代は、続いてきました。

しかし、ようやく今年度から印刷会社をお願いしてオールカラー印刷ができるようになりました。アルプス会設立当時を知る者にとっては、感無量です。今回は、講演会の報告や同窓生の海外で活躍、そして懐かしい実習ユニフォームの今昔など、カラー写真で見ごたえのある紙面づくりができました。

けれども、初めての取り組みのため、今回は会報の発行がずいぶん遅れてしまいましたことをお詫びいたします。それでも、遅れた分は十分懐かしみ、少し元気が出る会報ができたと思っております。どうぞ、ご覧ください。

会長あいさつ

7回生（医短）伊藤 喜世子 (信州大学医学部附属病院看護師長)

平成22年は猛暑の夏、そしてこの冬は、厳しい寒さや所によっては大雪と大変ですが、同窓生の皆様はお元気でいらっしゃいますか？ 私は、ワクチン接種を受けたのですが、久々にインフルエンザに罹って4日休みました。休んでみて、健康で過ごしていただけるありがたさを久々に実感しました。

さて、アルプス会の方は、ついに中校舎から医療技術短期大学部の看板がとりはずされました。少し寂しいですが、この看板は大事に校内に保管されているそうです。そして、新たに大学院の看板が取り付けられました。その大学院は「博士^{はくし}後期課程」の設置記念講演会が22年の1月に行われ、4月には2期生が入ってきました。また、保健学科看護学専攻の1回生も今年度で卒後4年目となり、現場でリーダー、プリセプターとして後輩指導を行う立場に成長して来ています。

今年度の会報は、初めてオールカラーになりました。懐かしい写真も載せましたので、ぜひご覧ください。今後も懐かしく、元気が出る写真を載せていきたいと考えておりますので、同窓生の皆様のお手元にそういった写真がございましたら、事務局までご一報ください。

就職難という世の中でも、まだまだ看護職は人手不足です。若年人口の減少を考えると、やはり潜在看護師の再就職と現在働いている看護師が継続して働ける環境整備が看護師不足解決には重要です。職



場に対する働きかけだけでなく、県や国の政策にも期待したいところです。

それでは、皆様、時節柄ご自愛くださいませ。お元気で新年度をお迎え下さい。また、お会いしましょう。

この原稿を印刷屋さんへ提出した後、東北地方・太平洋沖地震が発生しました。皆様もご存知のように大変な被害で、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。会員の方々の中には、ご自身やご家族が被災された方もいらっしゃるのではないかと大変気がかりです。また、救護班として被災地に向かう予定の方もおいでかもしれません。

被災地の報道を見聞きするにつけ、このようなときこそ、看護職がいかに必要とされているかを実感するとともに、今の自分に何ができるのだろうと自問する日々です。そして、まずは自分が生活する中で、できることを少しずつ継続していくことが大切だと考えています。会員の皆様もぜひ、できることからの支援をお願いしたいと思います。

震災義援金の寄付について

日本看護協会が今回の震災に対して、義援金を募集し始めました。そこで、当アルプス会からも役員で検討し、20万円を看護協会を通じて寄付することにいたしました。

第16回 アルプス会総会報告

以下の事項が審議され、承認されました。

平成21年度事業報告

1. 第15回総会 日時：平成21年7月11日（土）13:30～14:15 場所：保健学科北校舎311講義室
同窓会創立15周年事業として、総会后、寄付教材の体験を兼ねた母校ならびに信大病院見学会とティーパーティーを行った。
*総会出席者 50名 *ティーパーティー出席者 42名
2. 会報の編集・発行：平成22年1月「アルプスだより」第15号発行
3. 在校生への貢献
平成22年度入学生に対して学習支援グッズ（名入りシャープペンシル）の寄贈
平成21年度卒業生に対して学習支援グッズ（名入りはさみ）の寄贈
4. 理事会：第1回 平成21年5月、第2回 7月
5. 役員会：第1回 平成22年3月

平成21年度会計報告（4ページをご参照ください）

平成22年度事業計画

1. 第16回総会 日時：平成22年7月10日（土）13:00～ 場所：保健学科北校舎311講義室
講演会：ちいさいおうち書店 越高令子先生
『絵本は心の栄養剤～ちょっと疲れている大人と子どもたちへ、すてきな絵本のおはなし～』
2. 会報の編集・発行：平成22年10月頃「アルプスだより」第16号発行
・第16号からカラー印刷での会報作成を検討
・会報作成係の検討：幅広い学年から4名ほど選出 任期2年
3. 在校生への貢献
・平成23年度入学生に対して学習支援グッズの寄贈：名入りシャープペンシル
・平成22年度卒業生に対して学習支援グッズの寄贈：名入りはさみ
4. 理事会：第1回 平成22年5月、第2回 7月
5. 役員会：第1回 平成22年5月、第2回 7月 第3回 平成23年3月
6. 社会貢献：日本看護協会からハイチ大地震災害救援募金活動への協力依頼
7. 会則改正

平成22年度予算（5ページをご参照ください）

アルプス会会則改正について：理事の選出対象、人数や任期の変更に関わるもの

*改正した会則を同封しましたので、ご確認ください。

平成21年度会計報告

自:H21.4.1 至:H22.3.31

<運営資金収支>

(単位:円)

科目	金額	備考
歳入額	4,690,032	
歳出額	3,024,565	
差引残高(A)	1,665,467	普通預金: 1,645,305円、手持ち金:20,162円

<運営資金収入の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	2,292,602	2,292,602	0	普通預金額:2,290,220円+手持ち金:2,382円
新規会員入会費	1,600,000	1,360,000	-240,000	新規会員68名分
第14回総会会費				
講演会費	0	0	0	
懇親会費	0	0	0	
預金利息	0	591	591	
その他	1,005,639	1,036,839	31,200	100万円定期預金1口解約し普通預金へ(利息5,639円)、国債利息31,200円
計	4,898,241	4,690,032	-208,209	

<運営資金支出の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
第15回総会開催費				
講師謝礼	0	0	0	
茶菓子・花代	0	0	0	
懇親会費	50,000	42,000	-8,000	信大病院外来棟5階ソレイユにて
雑費	5,000	0	-5,000	
会報費				
会報用紙代	15,000	6,296	-8,704	A3コピー用紙5,000枚
封筒代	6,300	12,600	6,300	透明封筒2,000枚
発送代	150,000	144,400	-5,600	メール便代(ヤマト運輸)1797通+8通分
アルバイト代	40,000	48,000	8,000	800円×60時間
雑費	15,000	7,232	-7,768	宛名タックシート代等
第15回総会準備費				
封筒・葉書印刷代 総会案内郵送代	150,000	128,760	-21,240	はがき印刷,宛名タック貼り,郵便局出し含めて外注(宛名タックは事務局が準備)1,751通分+22通分
雑費	1,000	0	-1,000	
会議費				
役員会	27,000	7,000	-20,000	7人×1回×1,000円
理事会	130,000	69,000	-61,000	第1回 5/23:26名、第2回 7/11:43名
通信費	5,000	6,720	1,720	理事会案内・新理事選出依頼等の郵送
雑費	1,500	1,482	-18	
新入生への記念品費	0	0	0	前年度購入済み
卒業生への記念品費	0	0	0	前年度購入済み
桐の木会への同窓会費支払	210,000	210,000	0	1万円×助産選択学生人数
事務局運営費	30,000	30,000	0	
その他	2,310,000	2,311,075	1,075	創立15周年記念寄贈:フィジカルアセスメント人形1体、ベッド1台、ネームホルダーの代金
計	3,145,800	3,024,565	-121,235	

<特別会計>

(単位:円)

科目	金額	備考
定期預金	4,525,270	100万円×3口+150万円×1口+利息
国債	3,000,000	利付国債(5年:平成23年まで)
計(B)	7,525,270	

【平成22年3月31日現在の総資金】

(単位:円)

(A) + (B)	9,190,737
-----------	-----------

会計監査報告書

会計全般について監査した結果、証拠書類および帳簿が適正に管理され、
収支にあやまりのないことを確認いたしました。

平成22年4月6日 会計監査 百瀬悦子 

平成22年度予算

自:H22.4.1 至:H23.3.31

(単位:円)

<収入の部>

科 目	平成21年度決算	平成22年度予算	増 減	備 考
前年度繰越金	1,665,467	1,665,467	0	普通預金:1,645,305円、手持ち金:20,162円
新規会員入会費	1,360,000	1,640,000	280,000	新規会員82名見込み
第16回総会会費				
講演会費	0	0	0	
懇親会費	0	0	0	
預金利子	591	0	-591	
その他	1,036,839	0	-1,036,839	
計	4,062,897	3,305,467	-757,430	

<支出の部>

(単位:円)

科 目	平成21年度決算	平成22年度予算	増 減	備 考
第16回総会開催費				前々年度決算 前々々年度
講師謝礼	0	50,000	50,000	50,000 50,000
茶菓子・花代	0	5,000	5,000	6,036 3,365
懇親会費	42,000	0	-42,000	0 0
雑費	0	5,000	5,000	講師旅費等
会報費				A4×8ページ2,000部。
会報製作費	6,296	250,000	243,704	前年度までは用紙代のみ。
封筒代	12,600	12,600	0	透明封筒
発送代	144,400	150,000	5,600	メール便代(ヤマト運輸)
会報発送アルバイト代	48,000	48,000	0	800円×60時間
雑費	7,232	17,000	9,768	宛名タックシート代、編集会議時日当等
第16回総会準備費				はがき印刷、宛名タック貼り、郵便局出し含めて外注(宛名タックは事務局が準備)
封筒・葉書印刷代 総会案内郵送代	128,760	130,000	1,240	
雑費	0	0	0	
会議費				0
役員会	7,000	27,000	20,000	9人×3回×1,000円
理事会	69,000	100,000	31,000	50人×2回×1,000円
通信費	6,720	6,000	-720	理事会のお知らせを理事全員に郵送
雑費	1,482	15,000	13,518	役員会弁当等
新入生への記念品費	0	120,000	120,000	名入シャープペンシル200本
卒業生への記念品費	0	300,000	300,000	名入はさみ200挺
桐の木会への同窓会費支払	210,000	200,000	-10,000	1万円×助産選択学生人数
事務局運営費	30,000	30,000	0	
その他	2,311,075	50,000	-2,261,075	ハイチ大地震義援金
計	3,024,565	1,515,600	-1,508,965	

<特別会計>

(単位:円)

科 目	平成21年度決算	平成22年度予算	増 減	備 考
定期預金(元本金額)	4,500,000	4,500,000	0	100万円×3口+150万円×1口
国債	3,000,000	3,000,000	0	利付国債(5年:平成23年まで)

越高令子さん講演会



絵本は心の栄養剤



～ちょっと疲れている大人と子どもたちへ すてきな絵本のおはなし～

今年度の講演会は、市内沢村にある『ちいさいおうち書店』の越高令子さんに「絵本は心の栄養剤」と題して、講演と絵本の読み聞かせをしていただきました。越高さんは書店を営むかわら、県立こども病院で読み聞かせのボランティアをされていたり、「本と子どもの発達を考える会」をたちあげて「支援を必要とする子どもたちのための本」展を企画されるなど、多方面でご活躍されております。

講演会では、実際に数点の絵本の読み聞かせをしていただきました。そして、その絵本を子どもさんに読み聞かせたときの反応や様子、また、その絵本が越高さん自身の人生や考え方にどのように影響を与えたか、などを交えながらお話をしてくださいました。ここでは、講演会の中で読み聞かせをさせていただいた内のいくつかの本の紹介をさせていただきます。

「あっちゃんあがつく」「しあわせならてをたたこう」

この2冊は、とても楽しい絵本です。どこのプレイルームに行っても失敗しない、入院中の子どもも、そのお母さんたちにも笑顔が伝染する絵本だと紹介してくださいました。場の空気をかき混ぜてくれる絵本です。

「クシュラの奇跡」

越高さんがこども病院での活動にこだわるきっかけになった本ようです。これは絵本ではなく、何



▲3つの“L”

十もの重複障害を背負って生まれた女の子クシュラの3歳8ヶ月までの記録です。親は医師からの厳しい説明



▲講師の越高令子さん 手にしているのは、お店の名前と同じ絵本の「ちいさいおうち」

を受けた後、なんとかしたいとの思いから、懸命に本を読んで聞かせます。そして、クシュラは周りの大人が本を読んできたことによって言語を獲得していき、3歳8ヶ月までには、健常児以上の能力があると言われるほどになります。クシュラの場合は、いつも誰かが抱っこして、ミルクを飲ませて、本を読んできた。これって、こどもが一番嬉しいことなんです。抱っこされているときに、本を読んでもくれるということは、声が上から降ってくることになり、これは「あなたを大切に思ってますよ～」というメッセージにもなります。このように大切に育てられたお子さんは、きっと人を大事にする大人になっていくに違いありません。

「どんなかんじかなあ」

この絵本は実話に基づいて描かれたお話のようです。「見えないってどんな感じかな～?」「聞こえないってどんな感じかな～?」などと想像したり疑似体験をしてみると、見えることや聞こえることが〇〇にも思えてきます。絵本と侮ることなかれ。最後

にはうならされる結論が待っています。小学校高学年の子供たちに読み聞かせると、すごく感じ取ってくれる絵本だと紹介してくれました。

「負けるな、ロビー！」

交通事故で意識不明になった男の子ロビーの視点から、ロビーの言葉で書かれたお話です。レスピレーターで呼吸を維持されているロビーも、実はベッドサイド周囲の会話や、独り言を聞いて、いろんな考えをめぐらせているお話です。ロビーのお気に入り、鼻歌を歌ってくれたり、いつも秘密を打ち明けてくれる看護師のトレーシーのようです。看護の原点にも立ち戻らせてくれるそんな一冊です。



「ずっと前のことだよ」と。もう1人のおじいさんは……。お年寄りたちは、記憶とは？の答えとなる人生の凝縮した言葉を次々と男の子に伝えてくれます。男の子はそれらのヒントを元におばあさんに記憶と思われるものを届け…というお話です。このお話も、看護のヒントになるものが詰まっている気がしてなりません。

「おばあちゃんのきおく」

日野原重明先生が翻訳した絵本です。ある男の子が、隣家の老人ホームに住む記憶を失くしたおばあさんと出会い、「記憶ってなあに？」とホームの住人に聞いてまわります。あるおばあさんは「あったかいものだよ」と答えます。あるおじいさんは

絵本が紡ぎ出す意味の深さを改めて知るとともに、病院という閉鎖空間の中で、子どもに本を読み聞かせることの無限の可能性や意義を伝えてくださった時間でした。絵本の魅力にとりつかれました。

退職教員のご挨拶

「白衣の重さ」

成人・老年看護学 講師 橋本 みづほ
(医短 19回生)



私は他大学を卒業後、信大の医療短大に入学しました。希望に満ちてというよりも、どこか悲壮感を漂わせてのスタートでした。白衣が似合うナースには到底なれそうにない、そう思っていましたから。そんな私が、ここで看護の基礎を学び、附属病院で看護師として働いてからは、看護の力を実感しながらも、一方では難しさや限界に直面しました。現場の疑問を自ら解決できる力を養

いたい、そう思い大学院に進学。修了後は、まさかの母校での教員生活が待っていました。この7年間は、学生の皆さんには申し訳ないのですが、まさに試行錯誤・失敗の連続でした。そんな中でも、学生時代からの恩師、先輩や後輩、教え子達など多くの助けを得てなんとか今日までやってこられました。今では、看護の奥深さや可能性に心を動かされるようになり、そして何よりも、看護とは何かをこれまでの中で最も明確に、そして自らの口で人に伝えられるようになりました。

この母校に育ててもらったなああと改めて思います。いつの間にか、白衣を身にまとった自分が最も身軽に感じますから。お世話になりました。そしてありがとうございました。

「災い転じて福と成す」

広域看護学 助教 谷本 桂
(医短 15回生)



最近、履歴書を作成しました。自分の足跡を文字に起こす作業は久しぶりで、学歴・職歴欄を記入するのに手間取りました。しかし、西暦の下2桁が入る医療短大の学籍番号を憶えていたので、それを手がかりに埋めることができました。それにしてもなぜ、医療短大の学籍番号を憶えていたのでしょうか？

医療短大時代の私は看護師になりたいと切に願って在籍していたわけではなかったもので、勉学に励む

というよりはバイトやサークル活動に興じる学生でした。そのような姿勢は科目試験の結果に跳ね返ります。自慢ではありませんが、再試験を受けた数はクラスでトップクラスでした。3年生になると毎日実習着に袖を通すようになります。実習中は記録物の嵐で、毎日提出する物もありましたし、各実習終了時にはファイルで提出していました。

さて、もうお気づきですね。そうです。提出物が多く存在したことはそれだけ学籍番号を付記するわけですから否応無く憶えざるを得ません。さらに私は他人の倍も学籍番号を記入していたわけです。おかげさまで私に染みついた医療短大の学籍番号により間違いのない履歴書を作成することができます。今は再試験に感謝、災い転じて福と成すとはよく言ったものです。

世界で活躍する同窓生



Kingdom of Bhutan

26回生 (医短) 松村 久美子

1. はじめに

ブータンという国を知っていますか？ 知っている方はどんなイメージがあるのでしょうか？ 正式名称：ブータン王国、ネパール・中国・インドに隣接する内陸の南アジアの国です。人口は70万人程度、面積は九州とほぼ同じくらいと言われています。GNH（国民総幸福量）でも時々話題にでできます。

そんなブータンで青年海外協力隊として病院で活動してきましたので、ブータンについて生活や医療のことを主に紹介したいと思います。

2. 生活

<パロ>

私が活動していた所はパロという所で首都から車で1時間位、ブータン唯一の空港がある場所で、標

高は2,200m程。お寺なども沢山あり、観光客も多く訪れます。また、以前より農業関係の日本の援助が入っていて、日本米や沢山の種類の野菜を栽培している地域でもあります。





<家>

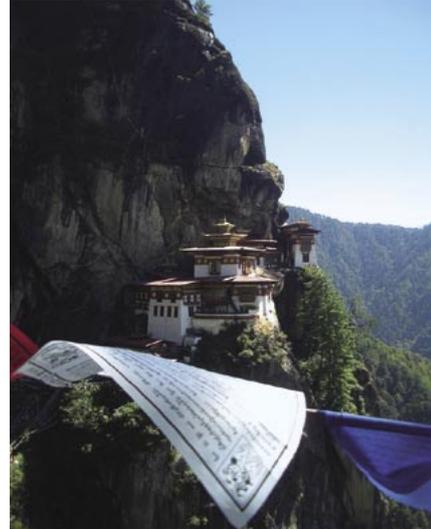
住んでいたのはブータン人がいるアパートです。リビング1部屋、ベッドルーム2部屋に台所とトイレ・洗面といった間取りです。私はそこに一人で住んでいましたが、周りのブータン人はこの広さにだいたい5人以上で住んでいました。ブータンでは伝統的な一軒家かアパートに大人数で住むのが一般的で、両親、祖父母に限らず、おじさん・おばさんが一緒に住んでいたり、いとこと一緒に住んでいたりします。

<ライフライン>

電気は比較的安定していて、たまに停電になる程度でした。ガスはガスシリンダーを使っていました。ブータン、水源は豊富なのですがインフラが整っていない為、常時水がでる所もあれば、1日数時間あるいは、数日に数時間といったところもあります。私の家は後者だったので、大きなポリバケツなどに水を貯めて生活していました。

<お風呂・洗濯・トイレ>

一般的な家庭ではシャワーのある家もありますが、昼間の暖かい時間に外の水道で髪の毛を洗ったり、バケツにお湯を作って体を洗ったりしている人が多いです。ブータンは乾燥している為、毎日髪を



毛や体を洗う習慣はありません。私はたらいかバケツに水を貯め、電気コイルでお湯を作って、お風呂の代わりにしていました。一部のホテルやアパートには浴槽があり、シャワーがついていて、お湯も使えます。

洗濯は洗濯機がある家もありあますが、私のいたアパートでは洗濯機がない家も多く、朝早くから手洗いをして、水滴る洗濯ものを外に干していました。乾燥した気候の為、洗濯物はよく乾きます。トイレは、日本の和式トイレに似ています。水洗タンクがあって流せるトイレもあれば、貯めてある水で流すトイレもあります。また、洋式の水洗トイレがある場所もあります。

<食事>

ブータンの食事は辛い!!!!です。ほぼすべての料理に唐辛子(エマ)が入っていると言っても過言ではないかと思います。唐辛子とチーズが入った煮込み：ダチが有名です。唐辛子と野菜や肉を煮たもの、唐辛子野菜を刻んでチーズを和えたものなどもあります。ブータン人は1週間に1~2kgの唐辛



子を食べるそうです。週一回の野菜市場では皆大量の唐辛子を買っていました。

レストランではスプーンがでてきますが、ブータン人は家では床に座って手でご飯を食べることが多いです。

3. 医療

ブータンでは医療費は無料です。ブータンには20の県がありますが、各県に1つずつ病院があります。病院の下にBHU (Basic Health Unit)、ORC (Out Reach Clinic) があります。BHUでは病院に行けない地域の人の診察や処置が行われており、医師がいるところと、医師以外の医療スタッフだけの所があります。ORCは普段は医療スタッフはいませんが、月に1回病院やBHUのスタッフが巡回に行き、予防接種や体重測定などを行っています。ブータンは山国であり、病院に行くのにとっても時間がかかる地域が多くあります。その為BHUやORCで病院に行けない人への医療を補っています。ORCは徒歩で何時間かかる場所も多くあります。

私が活動していたのは、パロの病院の中のCHU (Community Health Unit) というところです。乳幼児の予防接種、体重測定、家族計画、妊婦健診、ORCの巡回、HPVワクチンやインフルエンザワクチン、狂犬病ワクチンの接種、結核管理、子宮癌検診などがCHUの主な業務内容です。

私が主に関わっていたのは妊婦健診です。もちろん超音波はないので、トラウベ（産科聴診器：胎児心音を聴診するもの）が大活躍です。学生時代（専攻科時代）は、胎児心音わかるような…わからないような…でしたが、今ではしっかり心音がわかります。レオポルド触診も超音波がないおかげでかなり精度があがりました。問診・血圧測定・体重測定・尿検査・子宮底測定・腹部触診をして、異常があったら医師に送ります。超音波はなく基本的なことだけですが、基本をきちんと実施評価することがいかに大事ということを改めて感じました。

ブータンの医療、医療費無料などいい所もありますし、まだまだ改善したほうがいいと思うことも沢山ありますが、日本以外の現状を知ったおかげで、日本の医療のありがたさをひしひしと感じました。（日本も沢山問題はありますが。）

4. おわりに

もっともっと紹介したいことは沢山ありますが、書ききれないのでこのくらいにします。

ブータンに行き本当に沢山のことがあり、沢山の思いがあり、まとめるのは難しいですが、ブータンどうだったと聞かれて、一言で答えるとしたら「ブータンに行って本当によかった」です。

日本を出て生活して、最初は日本との違いに戸惑い、何で!!と疑問に思ったり、腹立たしく思うこともありましたが、ブータンの人と一緒に活動し生活するなかで、ブータンの良さがわかり、学ぶことも多く、そして、時間がゆっくり流れる生活の中で、自分にとって何が大切なのか、助産師として何が大切なのか、など本当に色々なことを考えました。また、日本では当たり前なのが当たり前ではない中で活動、生活して、日本の良さを改めて感じる事ができました。街に行って「シスター」（ブータンでは看護師のことをシスターと呼びます）と声をかけてくれる人が沢山いることが本当にうれしかったです。ブータン人にも日本人にも本当に沢山支えてもらったことに感謝です。ブータンは私にとって特別な場所です。5年後、10年後、いつかブータンに行くことが、今の私の夢です。



<病院の正面玄関とCHUの一部>



<ORC巡回の様子>



<HPVワクチン接種>



信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会「アルプス会」（以下「本会」という）と称する。
- 第2条 本会は信州大学医学部保健学科同窓会の看護学専攻分科会として位置づけられる。
- 第3条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科看護学専攻内に置く。
- 第4条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一. 会員の親睦および研修に必要な事項
 - 二. 母校の発展に関する事項
 - 三. その他必要と認められる事項

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一. 正会員
 - イ. 信州大学医療技術短期大学部看護学科の卒業生
 - ロ. 信州大学医学部保健学科看護学専攻（以下「本専攻」という）の在学生および卒業生
 - ハ. 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）および後期課程（看護領域）（以下「本大学院」という）の在学生および修了生
 - 二. 特別会員
 - イ. 本専攻教員
 - ロ. 本専攻元教員
 - ハ. 信州大学医療技術短期大学部看護学科元教員
 - ニ. 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員のうち信州大学医療技術短期大学部卒業生は会費として5,000円、信州大学医学部保健学科看護学専攻の在学生および卒業生、信州大学大学院医学系研究科博士前期課程(看護学分野)の在学生および修了生、後期課程（看護領域）の在学生および修了生は会費として2万円を納入するものとする。すでに会費を納入している本会の会員が3年次編入および大学院に進学した場合は、2万円の納入は免除される。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一. 会長 1名
 - 二. 副会長 1名
 - 三. 幹事 若干名

四. 会 計 1名

五. 書 記 1名

六. 理 事

イ. 医療技術短期大学部および医学部保健学科看護学専攻卒業生；各回生2名

ロ. 医学系研究科博士前期課程（看護学分野）および後期課程（看護領域）修了生；各回生1名

ハ. 保健学科看護学専攻在学生；8名（各学年2名）

ニ. 医学系研究科博士前期課程（看護学分野）在学生；1名

ホ. 医学系研究科博士後期課程（看護領域）在学生；1名

七. 会計監査 1名

第11条 役員は、次の職務を行なう。

- 一. 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 二. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 三. 幹事は事務局において本会の実務にあたる。
- 四. 会計は本会の会計を司り、総会において会計報告を行う。
- 五. 書記は庶務記録を司る。
- 六. 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
- 七. 会計監査は会計監査を行う。

第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。

- 一. 会長は、総会において正会員の中から選出する。
- 二. 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
- 三. 幹事は、会長が委嘱する。
- 四. 理事は、正会員の中から選出し委嘱する。
- 五. 会計は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
- 六. 会計監査は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
- 七. 書記は正会員の中から選出し委嘱する。

第13条 役員は、2年とする。ただし、在学生理事の任期は1年とする。再任は妨げない。

- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 顧問

第14条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。

- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

第15条 総会は、原則として毎年1回開催し次の事項を審議決定する。

- 一. 事業および決算報告
- 二. 事業計画および予算
- 三. 会則の制定および改廃
- 四. 役員を選出
- 五. 顧問の推挙
- 六. その他の必要事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

- 第16条 会長は必要と認めたとき、臨時総会を開催することができる。
- 第17条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第18条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第19条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第20条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第21条 総会は、議事録を作成しこれを保存する。
- 第22条 理事会は、会長、副会長、幹事、会計、書記、理事、会計監査によって組織する。
- 第23条 理事会は、会長が必要と認めたとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第24条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第25条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第26条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。
- 第27条 役員会は、会長、副会長、幹事、会計、書記によって組織する。
- 第28条 会長は役員会を招集し、必要事項について話し合うことができる。

第6章 会計

- 第29条 本会の経理は、会費および寄付金その他の収入をもって充てる。
- 第30条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成7年5月13日から施行する。
- この会則は、平成18年7月29日から施行する。
- この会則は、平成19年7月14日から施行する。
- この会則は、平成21年7月11日から施行する。
- この会則は、平成22年7月10日から施行する。

アルプス会会計細則

1. 同窓会費

- (1) 信州大学医療技術短期大学部卒業生は終身会費として5,000円
- (2) 信州大学医学部保健学科看護学専攻在校生および卒業生は終身会費として2万円。保健学科在学中あるいは卒業後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費6万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。
- (3) 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）の在學生および修了生，後期課程（看護領域）の在學生および修了生は終身会費として2万円。前期課程および後期課程に在学中あるいは修了後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費4万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。すでに会費を納入している本会の会員は2万円の納入は免除される。
- (4) 信州大学医学部保健学科看護学専攻生が助産学を専攻した場合は、同窓会費2万円のうち1万円を桐の木会の会費として納入する。

- (5) 特別会員は会費の徴収をしない。
2. 代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
3. 会計は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
4. 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

- この細則は、平成18年7月29日から施行する。
この細則は、平成19年7月14日から施行する。
この細則は、平成21年7月11日から施行する。

アルプス会会計申し合わせ事項

1. 理事会、役員会を開催した際には、役員に対して日当1,000円を支給する。
2. 事務局の運営費として年3万円を支給する。
3. 「会則 第5条 三.」に基づき、災害義援金等の社会貢献を行う。義援金等の寄付を行う基準は日本看護協会が呼びかけたものとし、役員会の審議を経て寄付を行うものとする。
4. 正会員ならびに特別会員に関わる弔事の対応については役員会で検討し、香典あるいは弔電をもって5,000円を超えない範囲で対応する。

- この申し合わせは、平成18年7月29日から施行する。
この申し合わせは、平成22年7月10日から施行する。



よく見ると
ストライプです

初代ユニフォーム
貴重な2年間のみ
使用しました

医短2回生 左から前 昌子(旧姓:常田)
古畑崇子(旧姓:中島)

型のとれない
キャップ...

さわやかブルー



綿100%
でゴワゴワの素材

医短7回生 (全員在学時の氏名)
左前より 市川喜世子、原直子、島崎昌子
池田浩美、野本玲子
右前より 菅沢博美、山崎章恵、菌部咲子
鈴木美香子、小澤真由美

あなたの
ユニフォームは
どれですか?

思い出の写真

★ユニフォーム編

ポーズにも時代が
反映されてます...

キャップが
ひと回り大きく
なりました

ユニフォーム
移行期!



医短19回生 (全員在学時の氏名)
左前より野毛明美、福与東亜子、原都子
左奥より山口潤子、師橋里美、山崎美由紀

途中でナースキャップが
廃止になりました

現在タイプ



パンツユニフォームが主流
ナースマンも増えてきました。



医短25回生 左から 宮川(旧:荻原)純子、
竹内(旧:江森)優理恵、草間恵里、越けさみ

この頃パンツタイプが登場!!
だけどワンピースが人気でした。

編集後記

初めてのオールカラー版アルプスだよりは、いかがでしたか? 写真を通して懐かしいユニフォームを思い出していただけたでしょうか。編集会議では、編集委員一同が懐かしい話の花が咲き盛り上がり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。今回の会報作成が同窓生同士の話す機会になりました。また、写真を見て懐かしい友達に連絡したい気持ちになりました。皆様もこんな楽しい編集会議に参加してみませんか? 紹介したいエピソードや写真がありましたら、ぜひ kiyoki@shinshu-u.ac.jp までお寄せください。ご意見やご感想もお待ちしております。

そして、住所変更のある方もぜひご連絡を事務局の方へお願いいたします。

編集委員: 青柳美恵子 (医短10回生)、赤羽公子 (医短13回生)、草間恵理 (医短25回生)、東田依子 (医短25回生)